

第2学年 外国語（英語）科学習指導案

吉賀町立六日市中学校

授業者 吉岡 恭子

1. 日 時 令和2年9月4日（金） 5校時（13：45～14：35）

2. 単元名 「My Goal ～2学期の目標を達成するために～」
NEW HORIZON English Course2 Unit4 Homestay in the United States

3. 単元目標

・読み手に配慮しながら、積極的に書く。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

・読み手に配慮しながら、自分の意見や考えを整理し、まとまりのある文章を書く。

【外国語表現の能力】

・have to、will、must を含む文の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。

【言語や文化についての知識・理解】

4. 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
読み手に配慮しながら、積極的に書いている。 (書くこと・言語活動への取組)	日常的な話題について、自分の意見や考えを整理し、まとまりのある文章を書くことができる。 (書くこと・適切な筆記)		have to、will、must を含む文の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。 (言語についての知識)

5. 基 盤

(教材観)

本単元では、生徒がアメリカでホームステイをしたときに困った事とその解決策を扱っている。アメリカの生活習慣について触れられていることから、外国の文化を学習するよい機会となるだろう。

新出の言語材料としては、(不)必要・義務を表す have [has] to / don't [doesn't] have to / must / 禁止を表す must not / 意志や未来を表す will などを含む文が扱われている。新中学校学習指導要領(平成29年7月)では、第2章の「2 内容」(1)英語の特徴やきまりに関する事項 エ 文、文構造及び文法事項(ウ)文法事項 c 助動詞において must や will などの文構造を扱うことと記されている。これらの表現は、話し合いにおいて自分の考えやその理由を述べる際によく使われる表現である。小学校や1年時に学習した can、Daily Scene 2 で学習した may にも触れ、生徒が自分の伝えたいことに最も近い表現を選択できるようにする。どの言語材料も日常的に使われる表現であるので、これらの表現を学習することは生徒の英語表現の幅を広げることにつながるだろう。

(生徒観)

<個人情報保護のため省略>

(指導観)

本単元を通して、読み手に配慮しながら、自分の意見や考えを整理し、まとまりのある文章を書く力を育てたい。「読み手に配慮する」とは、書いたことがよりよく伝わるように、①文章構成、②正確性、③既習事項を踏まえて書くことと考える。本単元では1学期に引き続き、話題に沿ってメモを作成し、それを基に対話、作文するという活動を行う。これにより目標とする力を育てていきたい。話題に応じて生徒が使用する新出表現が異なるので、新出表現の定着とともに、自分の気持ちに一番近い表現が選択できる力がつくことを期待する。生徒が自分の考えや気持ちを述べる際は、生徒が知っている言葉の中で述べられるようにしたい。そのために、生徒の良い例や間違いを紹介し、全体で共有していくことで生徒の表現を増やすことをねらいたい。

単元の最後には、学校生活についての目標とそれを達成するための手立てについて述べ合う活動を設定した。この活動を設定した理由は2つある。1つ目は、単元目標に迫る適切な活動だと考えたからである。2つ目は、生徒が自分自身の生活を見直す機会とするためである。目標達成のための手立てについて助言し合い、それを踏まえて再度自分で手立てを考えることで、それぞれの生徒がよりよく生きていこうとする意欲を高めていくことをねらう。

本時は全9時間の2時間目である。授業では自分の理想の学校について書いていく。生徒は前時までには have [has] to / don't [doesn't] have to の形・意味・用法を理解している。そこで、日米の学校生活の相違点を紹介し、それを踏まえて自分の理想の学校について既習表現を用いて述べさせる。文章を正しく、そして多様な表現で書けるよう、ワークシートを用いる。日米の学校生活や自分の学校について示された文に触れることで、生徒がそれを参考にできるため、表現の正確さや多様さが高められると考える。また、作文の前には、書く内容についてメモを作り、それを基にペアで対話させる。これにより生徒が書きたい内容を整理し、アウトプットの準備ができるようにさせたい。

6. 単元指導計画 (全9時間 本時 2/9)

時	目 標	主な学習活動	関	表	理	知	評価規準 (評価方法)
1	have [has] to / don't [doesn't] have to の形・意味・用法に関する知識を身に付けることができる。	have [has] to を含む文の形・意味・用法について知る。 家での決まりごとについて話す。				○	ペーパーテスト (後日)
2	理想の学校について、読み手に配慮しながら、積極的に書くようにする。	日米の学校生活を比較し、それを基に自分の理想の学校について書く。	○				ワークシート
3	理想の学校について、読み手に配慮しながら、積極的に書くようにする。	各班が作った理想の学校のポスターを参考に、再度自分の理想の学校について書く。	○				ワークシート
4	must, must not の形・意味・用法に関する知識を身に付けることができる。	must を含む文の形・意味・用法について知る。 海外の文化について自分の考えを述べる。				○	ペーパーテスト (後日)

5	will の形・意味・用法に関する知識を身に付けることができる。	will を含む文の形・意味・用法について知る。 帰宅後にすることについて話し合う。				○	ペーパーテスト（後日）
6	海外でのホームステイの様子を知る。	教科書を読み、ホームステイの様子を知る。				○	振り返りシート
7	ホームステイにおける悩みを知り、その解決策を考えることができる。	ホームステイにおける悩みやその解決策について考える。				○	ワークシート
8	学校生活についての目標とその手立てについて述べられる。	学校生活についての目標とその手立てについて述べる。		○			ワークシート
9	学校生活についての目標とその手立てについて述べられる。	相手の助言を基に、目標達成の手立てをより良いものにする。	○	○			ワークシート

7. 本時の学習

(1) 目 標

理想の学校について、読み手に配慮しながら、積極的に書こうとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(2) 展 開

時 (分)	学習活動と予想される生徒の反応	教師の支援	評価（評価方法）
15	<p>1 あいさつをする。</p> <p>2 本時の目標と活動の流れを知る。 「理想の学校について、読み手に配慮しながら積極的に書く」 ◎活動の流れ Talking Activity Review</p> <p>3 1分間の対話活動をする。 “Which school do you want to go to, in Japan or in America?” → 『掃除がない』をどう言うのか → 『私服』の言い方がわからない → 「どう質問していいかわからなかった」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に見通しがもてるよう、目標と活動の流れを提示する。 ・「読み手への配慮」として「構成」、「正確さ」、「多様な表現」の3点を伝え、生徒にめあてに迫るための要点を生徒に理解させる。 ・対話後にやりとりにおける疑問点や使ってよかった表現を全体で共有し、情報を付け加えたり、質問をしたりして即興的に会話を広げられるようにする。 	

20	4 理想の学校について、読み手に配慮しながら書く。 (1)日米の学校生活の相違点を知る。 (2)自分の学校生活を振り返る。 (3)自分の理想の学校について考え、その内容をメモする。 (4)メモを基にペアで対話する。 (5)メモやペアでの対話を基に作文する。	<ul style="list-style-type: none"> 活動の手順を理解させるため、活動前にデモンストレーションを行う。 表現の正確性や多様性を高めるために、日米の学校生活や自分の学校について問題を出し、様々な表現を参考にできるようにする。 メモの作成、ペアでの対話により書きたい内容を想起させる。 	理想の学校について、読み手に配慮しながら、積極的に書いている。 (ワークシート)
10	5 各班で理想の学校のポスターを作る。 (1)班内で考えた理想の学校を伝え合う。 (2)内容に優先順位をつけながらまとめる。		
5	6 活動の振り返りをする。 ワークシートに振り返りを記入する。 「今日の学びは何ですか」 「自分の課題は何ですか」	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動を振り返ることで生徒が自分の学びを明確にする。 活動全体を通して、良かったことを具体的にあげて確認することで、生徒の次時への意欲を高める。 	

(3) 評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	努力を要する状況への手立て
<p>文章の構成に気をつけ、多様な表現を使用し、正しい英語でまとまりのある文章を積極的に書こうとしている。</p> <p>(例)</p> <p>My Dream School Students have to wear school uniform. Students have to eat school lunch. But they can choose drinks. This school has fall vacation in November. So they can take a rest.</p>	<p>文章の構成に気をつけ、正しい英語でまとまりのある文章を積極的に書こうとしている。</p> <p>(例)</p> <p>My Dream School Students have to wear school uniform. Students have to have fall vacation in November. Students have to eat school lunch. Students don't have to drink milk.</p> <p>(十分に満足できる状況にするための手立て) 使えそうな既習表現を提示し、活用するように促す。</p>	<p>ワークシートの文を参考にさせ、自分の考えに近いものを書くように促す。</p> <p>何を書いているか思いつかない生徒に対しては、話をしながら一緒に内容を考える。</p>

(4) 協議の視点

- メモの作成やそれを基にしたペアでの対話活動は、本時の目標を達成するために有効であったか。